

第4回例会

一般質問から

会派みどり
木下八重子

新年度予算編成について

質問 新年度予算編成が始まっていると思うが、市の財政は一段と厳しさを増していることから、一般会計の基金から平成27年度は4億3,000万円の繰り入れをし、基金残が12億9,000万円となり大変な状況にあり、市長として大きな事業はできなくなることが予想されるが、28年度予算において、どのくらい基金からの繰り入れを考えているのか伺う。

答弁 本年度の基金繰入金は5億円を見込んでいます。

平成26年度の基金繰入金が予算より市税収入が上回ったことや執行残などにより一定程度減額することができたことから、基金残が12億9,000万円から27年度末基金残高は13億7,000万円の見込みとなっています。

財政健全化計画では平成31年までに5億円の収支改善を目標に掲げていることから、28年度は2億円程度の収支改善を目標に、できる限り基金繰入金の減額に努めたいと考えています。

女性センターについて

質問 市長は11月の市政報告会で女性センターを立ち上げ、女性が安心して子どもを産み育てられる環境の整備のため、今バラバラになっている女性にかかわる業務を集約し、1か所にまとめる女性センターをつくりたいとの報告がありました。具体的などこに、どのような機構、組織を考えているのか伺う。

答弁 10月に策定した「滝川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、妊娠・出産・子育てまでの相談窓口となるワンストップ機能の設置を位置付け、子育て応援課、健康づくり課、発達支援センターや保育所などが密接に連携し、気軽に立ち寄ることのできる集いの広場、居場所となる世代間交流が可能な施設をまちなかに設置できればと考えています。

会派清新
柴田 文男

財政健全化について

質問 財政健全化計画策定に向けた基本的な考え方について伺う。

答弁 本市の財政状況は極めて厳しく、本年度予算では多額の基金繰り入れを行い、収支不足を補ってきました。

今後5年間で毎年平均5億円の収支不足が見込まれ、平成31年度までの5年間で計画期間として財政健全化計画を策定しました。削減の目標額は事務事業の見直しで1億2,000万円、組織・人件費の見直しで3億6,000万円、歳入確保対策で2,000万円の効果を目指します。

質問 今後の中期財政見通しについては、地方財政計画などの国の動向を踏まえて分析されたのか。

答弁 財政健全化計画の策定にあたり作成した中期財政フレームは現時点で捕そくできる数値を固定して計上したものです。特に大きな歳入であります地方交付税など

は年度により制度が大きく変更されることも想定しなければならず、また、地方創生などの新たな交付金制度の創設もあり、国の動向を捕そくしての財政フレームの策定は困難と考えます。

高齢者福祉の推進について

質問 平成25年度における65歳以上の高齢者人口は3,160万人で総人口の25%となり、過去最高である。しかし、今後はその伸びが鈍化するとも言われ、減少も考えられる。本市の今後における高齢者問題に大きな影響を及ぼすと思われるが、市の考え方について伺う。

答弁 本市においては65歳以上が4年後、75歳以上は14年後に人口のピークを迎えます。

ご指摘のとおり、多くの介護事業所が収入減に直面し、経営も厳しい環境に置かれています。国や道では介護人材確保に向けて、介護職員の処遇改善、介護現場に対する理解、潜在的な資格者の掘り起しなど検討や対策が講じられています。本市としては国、道の制度の活用を働きかけていきます。